



木村将人さん

全道のつどい2017
今、振り返る
あの頃の思い
シンポジウム抄録

学校に行っていなかったこと

“風邪だった”という程度

小学5年生から不登校 木村将人さん

私が学校に行きしるようになったのは小学5年生です。中学に入ってからはずっと行かなくなりました。

後ろめたさは
ずっと感じてた

私が生まれ育った北見市にはリースクールなんておしゃれなものはありません。なので、家でいろいろなことをしていました。いちはん熱中していたのは熱帯魚の飼育で、お菓子づくりやパンづくりにもハマっていました。

担任とのちょっとした確執もあり、擦り切れかかっていた糸がそこでブツンと切れたのかなって思いますが、ゴールデンウィーク明けから教室に入れなくなり、それからはずっと別室登校を続けていました。

小学生の2学期から再び行くようになったというのが大まかな流れです。行かなくなってきたきっかけは、正直わかりませんが、自分の性格とか人間関係とか家庭環境とか、理由を挙げようと思えばいろいろ見つけられます。私が生きた育った北見市にはリースクールなんておしゃれなものはありません。なので、家でいろいろなことをしていました。いちはん熱中していたのは熱帯魚の飼育で、お菓子づくりやパンづくりにもハマっていました。一方で、中学3年生の9月をすぎたころから、「このままでもいいのか」と思うことがだんだん増えてきました。探してみると、自分でも

自分の不登校
こだわらずに

不登校だったころをどのように捉えているか。私のなかでは「あのときはたしかに風邪をひいていたよね」というのが素直な気持ちです。不登校したことはいろんな人に出会えたという意味では、たしかに自分の人生が変わったかもしれない。とはいえ、「学校に行っていなかった」という状況があっただけで、あまりそこにこだわることもないのになって思っています。今は大学で勉強するかたわら、「漂流教室」などで訪問のボランティアをしています。不登校には今後とも関わり続けたいと思います。その動機は自分の過去ではなく、あくまで目の前にいる子どもや家族の今にあるのだろうと思っています。

Vol.472

不登校の歴史

何を検討するのか

国もついに「学校以外の学び方・育ち方も視野にいれて考えていかなければいけない」との視点に立って動き始めたな、という期待が高まった。2015年1月30日、第1回「フリースクール等検討会議」が開かれたことである。会議ではまず、会議そのものを公開とし、会議資料についても可能な限り公開することを決めた。議事要旨についても同様に公開することとした。また、傍聴や事前登録した報道機関による取材についても、会議の進行を妨げないかぎり、自由にできるものと確認した。会議を進めるにあたっては、教育再生実行会議の第五次提言(今後の学制の在り方について)(14年7月3日付)を踏まえるため、その抄録が紹介された。その一部を紹介する。「国は、小学校及び中学校における不登校の児童生徒が学んでいるフリースクールや国際化に対応した教育を行なうインターナショナルスクールなどの学校外の教育機会の現状を踏まえ、その位置づけについて、就学義務や公費負担の在り方を含め検討する。」続いて、会議では、「フリースクール等に関する主な論点例」として、以下の検討内容が示された。おもな項目およびその概要だけ列記したい。①基本的な考え方/「多様化する子どもたちの実態や環境に応じた教育のあり方」「学校外の学習成果を社会で活かすことができる制度の在り方」。②学校外での学習の現状③現状の問題点/「制度上の位置づけ」「学習面及び経済面での課題」。④学校外での学習に対する学習面での支援/「学習の仕組み」「フリースクール等で学ぶ子どもに対する学習面の支援内容や方法」「支援を行なう場合、フリースクールの自主性・多様性をどう保障するか」「学校外での学習の質をどのように保障するか」。⑤子ども・保護者に対する進路指導や生徒指導・支援をどう行なうか/「学校外での学習の成果をどのように評価するのか」。⑥課題など/「フリースクールや家庭等での人権侵害や児童虐待をどう防止するか」「学校復帰や社会的自立をどのように促していくか」。⑦学校外での学習に対する経済面での支援/「経済的支援の対象は、フリースクール等の学習施設とするか、子ども(保護者)個人とするか」「経済的支援の対象となる要件、費用額をどうするか」「支出の主体は国・都道府県・市町村のいずれとするか」。⑧国及び自治体の支援体制/「国、都道府県、市町村の役割をどうするか」「教育委員会と首長部局との役割分担連携をどうするか」「自治体の支援体制に対する財政措置をどうするか」。⑨制度との関係/「義務教育との関係をどう考えるか」「特に就学義務との関係において、学校外での学習をどう位置づけるか(なお、文中のフリースクール等は教育支援センターや自宅学習の子どもも入る)」。うわあ、検討内容って、こんなにあるんだと思った。(つづく・奥地圭子)

全国の不登校・ひきこもりの親の会一覧(関西)

- 関西
■不登校・ひきこもり親の会ナチュナル(京都)
連絡先 090-4695-2113(佐藤)
■夢の樹サロン(京都)
連絡先 0774-76-0129(比嘉)
■学校に行きたがらない子を持つ親の会フラワーズ(大阪)
連絡先 090-3920-5214(小川)
■ほっとタイム(親の会)in藤井寺(大阪)
連絡先 072-938-7141(里中・夜)
■結空間不登校親の会「めだかの会」(大阪)
連絡先 yui-kuukan@r7.dion.ne.jp(中尾)
■みなものまんま会(大阪)
連絡先 06-6881-0803(フリースクールみなも)
■学校に行かない子と親の会(大阪)
連絡先 06-6977-3118
■子どもについての悩みを語り合う会in河内長野(大阪)
連絡先 0721-54-3301(永田)
■不登校のこどもの居場所in岸和田(大阪)
連絡先 ibasyo2016@gmail.com(中馬)
■こうべLDの会(兵庫)
連絡先 078-706-6186(ふおーらいふ)
■ふおーらいふ親の会「たんぼぼ」(兵庫)
連絡先 078-706-6186
■不登校を考える親の会・不登校ネットワーク(兵庫)
連絡先 078-965-7100
■不登校・ひきこもりを話す市民の会(兵庫)
連絡先 078-360-0016
■フリースクールForLife親の会(兵庫)
連絡先 078-706-6186
■子午線ファミリー定例会(兵庫)
連絡先 078-961-6441(出水)
■宝塚不登校の会「サポート」(兵庫)
連絡先 0797-86-5001(宝塚市社協ボランティア活動センター内)
■ふくろうの会(兵庫)
連絡先 090-5674-4047(中島)
■NPO法人いまじん不登校親の会(兵庫)
連絡先 090-6983-2120(岸本)
■不登校ひきこもり親の会「きっかけサロン」(奈良)
連絡先 090-3827-1263(宇陀)
■ふきのとうの会例会(奈良)
連絡先 0742-48-8552(大谷)